

2022 年度 事業報告書

自 2022 年 4 月 1 日
至 2023 年 3 月 31 日

公益財団法人日本テレビ小鳩文化事業団

2022年度 事業報告

2022年4月1日～2023年3月31日

1. 視聴覚障害者の日常生活の支援及び生活支援の援助者養成

(1) 手話放送番組の制作支援

日本テレビのニュース番組「NNNニュースサンデー」の手話放送に出演する手話通訳士の派遣事業。当該番組は、毎週日曜午前6時15分～6時30分、全国28局ネットで放送しています。手話通訳を、画面右下にワイプで挿入しています。

2022年度も東京都聴覚障害者連盟から推薦を受けた4名の手話通訳士の皆さんが、ローテーションで年間52回の手話放送に携わり、聴覚障害者の方々への情報サービスに努めました。

(2) 点字カレンダーの製作及び無料配布

点字カレンダーは、1976年より制作を開始し、全国の視覚障害者の方に無料配布して以来、47年間継続している基幹事業です。

毎月、美しい写真と点字による解説文を付けて、晴眼者と視覚障害者とのコミュニケーションを深めていただく願いが込められています。2023年版のテーマは、「日本の名山」。約2万部を製作。日本点字図書館の協力で、主に関東の視覚障害者学校、視覚障害者養護施設、視覚障害者福祉関係団体、在宅視覚障害者に無料配布しました。また、日本テレビネットワーク各社の協力を得て、関東以外の全国各地で別途約2万部の無料配布を行いました。

(点字製作：日本点字図書館 写真撮影：岩本圭介氏 デザイン：神馬俊二氏)

(3) 手話スクールの開講と手話の普及事業

手話スクールは、1975年に開講して以来、現在まで毎年継続している基幹事業です。手話ができる人を一人でも多く増やし、手話を通じて聴覚障害者とのコミュニケーションできる社会を目指し、聴覚障害者への生活支援に貢献してもらうことを目的としています。

入門編・基礎編の1, 2年生、上級編である3年生の講座を行っています。

2022年度は4月開始予定でしたが、コロナの影響で3か月遅れの7月2日(土)にスタート。3月11日(土)に、全カリキュラムを修了し、3月18日(土)に、3年生21名の修了式、2年生29名の卒業式を無事終えました。

土曜日(1年生13:00~14:30、2年生14:50~16:20、3年生14:00~16:00)に開講しています。

会場： 7月~9月 JR神田駅近くの会議室

10月~3月 JRお茶の水駅近くの会議室

講師： 1年生, 2年生 田原 直幸

3年生 久住呂 幸一

助手： 1年生, 2年生 村山佳子、安田育子

3年生 黒澤るみ子

生徒数(2023年4月1日現在)： 1年生 48名、2年生50名、3年生 25名

24時間テレビへの協力は、コロナのため休止

毎年、手話スクールの手話コーラス部員約6名が、「24時間テレビ」に出演していたが、コロナのため3年連続休止。聴覚障害者の来場に対応するための手話通訳ボランティアの活動も休止となりました。

(4) 視覚障害者に向けて

～ラジオ番組からの情報発信と「音声図書・日テレ小鳩文庫」の制作へ

視覚障害者に役立つ情報や、晴眼者にとっても有益な情報を発信する、ラジオ日本のラジオ番組「小鳩の愛」を2014年4月より放送開始して丸9年が経ち、2023年度に10年目を迎えました。毎週土曜日の朝8時15分から30分まで放送。ラジオ日本と富山県をカバーする北日本放送（KNBラジオ）でも放送されています。

メインパーソナリティは、日本テレビの杉上佐智枝アナウンサー。

また、3年前より温めていました番組連動企画として、視覚障害者のための音声図書「日テレ小鳩文庫」を日本テレビアナウンサーの協力により昨年3月から制作を開始しました。その第1号として、「名犬チロリ 日本初のセラピードッグになった捨て犬の物語」(作・大木トオル)が昨年10月に完成しました。朗読は、杉上佐智枝アナウンサー。第2号の「「さすらい猫ノアの伝説」(作・重松清)は、4月26日完成。朗読は、岩本乃蒼アナウンサー。

日本点字図書館の音声図書ネットサービス図書館「サピエ」や、CDでの貸し出しを通じて、視覚障害者の方のための音声図書を提供しております。

(5) 障がい（視聴・聴覚）のある生徒のための進学支援制度による給付金

障がい（視覚、聴覚）のある生徒を対象にして、修学の意欲と能力のあるにもかかわらず、経済的事由により大学や専門学校、短期大学への進学が困難な生徒を対象にして、進学時に必要な経費を支援する制度を2022年度からスタート。進学一時金として、一人一律80万円を給付する制度です。返済は不要。申請者の中から書類選考の上、毎年約20名に給付します。

2022年度は、19名から応募があり、17名に給付をします。

(視覚障がい6名、聴覚障がい11名。)

進学一時金は、志望校に入学した後の4月に毎年給付します。

希望者の募集については、日本盲学校校長会、日本ろう学校校長会のご協力により、全国の盲学校やろう学校の生徒へ広報活動を行うほか、ホームページやパンフレットの配布などにより、周知徹底を図り、希望者を募っています。

申請者の中から、内定者を選考するために、

「日本テレビ小鳩文化事業団 障がい（視覚・聴覚）のある生徒のための進学支援選考委員会」を設けました。

選考委員は、日本テレビ小鳩文化事業団の理事5名の皆さんで構成し、日本テレビ小鳩文化事業団の常駐スタッフが事務局として、事務運営にあたります。

選考委員には、

片石 修三 理事（社会福祉法人日本視覚障害者職能開発センター 理事長）

黒崎 信幸 理事（社会福祉法人全国手話研修センター 理事長）

塩屋 隆男 理事（公益財団法人アイメイト協会 代表理事）

多田 宏 理事（一般財団法人日本介護福祉経営人材教育協会 代表理事）

石塚 功 理事（日本テレビ放送網株式会社 総務局長）

の5人の理事の皆さんにお願いしています。

2. 視聴覚障害者を支援する団体への助成

（1）聴覚障害児の学校への助成

助成先：学校法人日本聾話学校

日本聾話学校では、3年ぶりに、昨年6月30日～7月1日、町田市にある大地沢青少年センターで夏季学校を開催しました。幼稚部6名、小学部25名、中学部10名の生徒が参加しました。家族と離れ、子供同士の生活をする事で、身辺自立の機会や協力し合って活動する機会をもつことなどを目的とて行われ、その課外活動へ助成を行

いました。

(2) 視覚障害者福祉DVDの製作及び生活支援活動への助成

助成先：社会福祉法人日本盲人職能開発センター

1) 視覚障害者福祉ボランティア指導用DVD制作への助成を実施。

2022年度は、「視覚障害者の自己実現と社会参加～日本ライトハウス100年の活動～」

をテーマにしたDVDを制作。そのDVD制作への助成を行いました。

2) 下記 視覚障がい・就労支援者講演会の出張旅費への助成

(2022年4月1日～2023年3月31日)

NO	開催日	場所・内容	対象者	内容	備考
1	2022年 7月15日 ～ 7月17日	(名古屋市) 視覚障害・就労支援者講習会 名古屋国際会議場	職員・障害者・ ボランティア	福祉講演 映画	ガイドブック 配布
2	2022年 11月10 日 ～ 11月12日	(大阪市) 視覚障害・就労支援者講習会 日本ライトハウス	職員・障害者・ ボランティア	〃	〃
3	2022年 11月30日 ～ 12月2日	(金沢市) 「あいわ」 視覚障害者の働くを考える会	職員・障害者・ ボランティア	〃	〃
4	2023年 2月15日 ～ 2月17日	(浜松市) 視覚障害・就労支援者講習会 ウイズかじまち	職員・障害者・ ボランティア	〃	〃

3) 福祉映画利用相談及び貸出諸費への助成

4) 貸出ビデオ更新費への助成

(3) 「盲人との接し方」ガイドブックの製作への助成

助成先：社会福祉法人日本盲人職能開発センター

小冊子「盲人に接する人々のために」は視覚障害者との接し方をイラストを交えて分かりやすく解説したもの。1万部を製作し、視覚障害者の福祉講演会や映画会会場のほか、都道府県・市町村役場の福祉課にも配布した。

(4) 点字技能検定事業（検定試験）への助成

助成先：日本盲人社会福祉施設協議会

日本盲人社会福祉施設協議会が主催する点字技能検定試験の事業に助成しました。

受験にかかる費用の一部に使用されます。

この検定試験の目的は、点字関係職種の専門性と認知度を高め、点字の普及と点字の質の向上を図ることにあります。合格者は、厚生労働省が認定する「点字技能師」の資格を取得し、視覚障害者施設・団体、専門学校等の講師として活躍しています。点訳・点字校正・点字指導を行います

助成先：社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会

2022年度の第22回点字技能検定試験は、11月13日（日）に、東京、大阪、福岡の3会場で行われました。

(5) 視覚障害者ケア専門技術認定講習会への助成（コロナのため休止）

助成先：全国盲老人福祉施設連絡協議会

毎年、都内で開催していた視覚障害者ケア専門技術認定講習会は、コロナ感染防止のため、3年連続休止となりました。

（この講習会は、全国の各種盲養護老人ホームの職員や在宅福祉に携わるヘルパー等を対象に、視覚障害者へのケアする専門職としての知識や専門的サービスの技術を習得し、施設におけるサービス向上や、介護職員への指導者の養成を目的として毎年開催されています。その講習会に助成し、講習会にかかる費用の一部に使用されています。）

(6) 角膜移植・再生医療への助成 (チャリティイベントは、コロナのため休止)

助成先； 移植・再生医療を支える会

視覚障害者治療に貢献することを目的に、複数の大学病院の角膜移植・再生医療・およびアイバンクの提供促進のためのチャリティイベント「PARTY for VISION」へ助成してきましたが、コロナ感染防止のため、3年連続休止となりました。

(7) その他、下記助成を実施

- ・聾者の団体が主催する野球大会への助成

(助成先：全日本ろう社会人軟式野球連盟)

- ・チャリティ映画会開催に助成 (映画のチケット購入)

助成先：日本点字図書館、日本聾話学校

- ・本間一夫文化賞に助成 (記念品代)

助成先：日本点字図書館

(本間一夫文化賞とは、2003年に永眠した日本点字図書館創立者の本間一夫氏を記念し、視覚障害者の文化の向上に関する分野で優れた業績をあげた個人・団体を顕彰するために設けた賞のことです)

- ・東京都盲人福祉大会に助成

助成先：東京都盲人福祉協会

- ・失明原因の解明と失明予防・知識の普及と啓発を図る活動への助成

助成先：日本失明予防協会

- ・東京都社会福祉協議会関係会費

助成先：社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

- ・視覚障害者のテニス大会「ブラインドテニス大会」への助成

助成先；日本ブラインドテニス連盟

3. 文化及び芸術に関する各種の公演、講座等

(1) グランプリ・コンサート 2022 は休止 (公財) 日本室内楽振興財団と共催

次代を担う演奏者の登竜門のコンサートとしてすっかり定着しました、室内楽の楽しさ、素晴らしさを伝えるコンサート。

昨年5月に開催予定であった、第10回大阪国際室内楽コンクール&フェスタは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、海外からのアーティストを招いてのコンクール&フェスタは、3年連続中止となりました。そのため、コンクールで優勝したアーティストを招聘してのグランプリコンサートも、同じく3年連続中止となりました。

(2) 第16回思い出の詩コンサート 長崎市にて開催 (企画、主催)

世代やジャンルを超えて将来も残していきたい日本や海外の名曲を選曲、構成して、幅広い世代に、音楽の楽しさ、素晴らしさを伝えるコンサート。毎年全国各地で開催しています。

出演は、日本の最高峰のボーカルグループ「サーカス」の中心メンバーとして30年以上にわたって活躍した、叶央介、原順子の夫婦デュオ「2VOICE」。

昨年は、長崎県長崎市にあるブリックホールにて開催。また、このコンサートは、地元の少年少女合唱団が参加することも大きな特徴です。

昨年は、地元の長崎市・長崎少年少女合唱団が参加して共演。貴重な音楽経験となりました。

「音楽の黄金時代」と言われる、1960年代から70年代の日本や海外のポップスの名曲を中心に選曲し、長崎市民のみなさんが、約2時間、ライブコンサートを心ゆくまで堪能しました。

開催日： 2022年12月23日(金)

会場； 長崎市ブリックホール大ホール。 入場料 2,000円。当日2,500円。

出演； 2V o i c e

(日本最高峰のコーラスグループ「サーカス」の元メンバーである叶央介、原順子)

入場者； 約 400 名。(感染防止のため、定員の半分以下で開催。)

(3) 想いでの詩コンサート特別企画・福祉コンサート

青梅市 視覚障害者 養護老人ホーム「聖明園」にて開催

想いでの詩コンサート特別企画としての福祉コンサートを、東京青梅市にある、視覚障害者養護老人ホーム「聖明園」曙荘において、12月11日、18日と2週連続で開催しました。3年以上前に企画しましたが、コロナのため、合計7回にわたり中止、延期を繰り返しました。昨年ようやく3年越しで開催することができました。

聖明園の聖明福祉協会の会長秘書である本間律子さんからは、

「視覚障害者・老人養護ホームの利用者は、高齢と視覚障害という二重の障がいをもっているため、外出もままならないのが実情です。そのため、施設にいながらにして、本格的なライブの演奏に浸れることは、音楽が大好きな利用者にとってこの上ない喜びでした」との温かいコメントをいただいております。

開催日；2022年12月11日(日) 出演；オペラ歌手 家田紀子、千代崎元昭

開催日；2022年12月18日(日) 出演；ポップス歌手 タブレット純

(4) スクールコンサート 東京・町田市、愛知県岩倉市 にて開催

次代を担う小・中学校の生徒を対象にして、ジャズ、クラシック、映画音楽、ミュージカル、日本や海外のポップスなどジャンルや時代を超えた名曲を、ライブで楽しんでもらい、音楽の素晴らしさを伝え、豊かな感受性を育んでもらうコンサート。

また、プロの演奏を聴くだけでなく、地元中学校の吹奏楽部や少年少女合唱団が、プロの演奏家と共演する「参加型コンサート」も、このスクールコンサートの大きな

特徴です。

1) 9月9日(金) 東京都町田市第一中学校にて開催

1部は、一流のプロの演奏家による公演。2部は、町田市立第一中学校吹奏楽部がプロと共演しました。生徒約300名が鑑賞。

長くコロナの影響でライブのイベントができなかった生徒の皆さんにとって、久しぶりにライブで音楽を聴く貴重な音楽体験になりました。

2) 2月20日(月)、21日(火) 愛知県岩倉市総合体育文化センター多目的ホールにて開催

愛知県岩倉市立岩倉中学校、岩倉市立南部中学校が参加。各校生徒あわせて約500名の生徒が鑑賞。 コロナのため活動自粛が続いた中、プロの演奏家のライブの音楽をまじかで聴くととても貴重な音楽体験となりました。

また、前日には、各中学校吹奏楽部の生徒がプロの演奏家によるワークショップに参加。プロの演奏家から直接、楽器の指導を受けて、生徒の皆さんは、得難い経験になったと思います。

(4) 聲明公演 は、3年ぶりに開催。

日本音楽の源流といわれる「聲明」を日本の伝統文化と捉え、次代に継承することを目的とし、「聲明と西洋音楽の楽器が共演するオリジナルコンサートです。この度、3年ぶりに2月4日(土)に開催しました。

荘厳な「聲明」の歌声と 西洋の楽器であるピアノ、サクソ、バイオリン、パーカッションによるコラボレーションを堪能していただきました。

日時； 2023年2月4日(土)

場所； 東京 晴海第一生命ホール 観客 約250名 入場料 2,500円

4. 文化及び芸術に関する事業、活動への助成

(1) 「第74回 高円宮杯全日本中学校英語弁論大会」は、3年ぶりに対面で開催

助成先：日本学生協会基金

1949年という戦後のまだ混乱期に、今後の日本の将来を見据え、将来の日本を担う国際性豊かな青少年を育てるためには英語教育が必要である、という理念のもと立ち上げられた全国の中学生の英語弁論大会。

2022年度は、3年ぶりの対面での開催となりました。

5. 「創立10周年記念事業」の実施

現在の公益財団法人「日本テレビ小鳩文化事業団」は、テレビを十分に享受できない視覚、聴覚障害者の生活支援を行う福祉事業を行う財団法人「日本テレビ系列愛の小鳩事業団」（1974年10月設立）と、テレビではとらえきれない文化の交流、振興、発展を目指す文化事業を行う財団法人「日本テレビ放送網文化事業団」（1976年11月設立）が合併して、2012年4月2日に公益財団法人「日本テレビ小鳩文化事業団」としてスタートしました。2022年4月2日に創立10周年を迎えました。

この創立10周年という記念すべき2022年度に、「福祉」と「文化」への貢献として、「創立10周年記念事業」を下記の通り企画して行いました。

1) 全国の視覚支援学校で、スクールコンサートの開催

全国の視覚障害者の生徒の皆さんのために、音楽の素晴らしさを伝え、ライブで楽しんでもらうスクールコンサートを全国各地の視覚支援学校で開催しました。

4月28日(木) 富山県立富山視覚総合支援学校

6月30日(木) 山形県立山形盲学校

10月14日(金) 愛媛県立松山盲学校

11月10日(木) 京都府立盲学校

12月21日(水) 沖縄県立沖縄盲学校

松山や京都では、プロの演奏を聴くだけでなく、視覚障害者の生徒や先生の皆さんが、プロと一緒に歌を歌い、演奏し、沖縄では、全盲の高校生がピアノを弾き、プロと共演するなど、とても貴重な音楽体験のコンサートになりました。

2) 創立10周年記念イベントの開催

・「全身で感じて楽しもう タップダンスと。タンゴと。バレエと。」

～視覚・聴覚障害者との共生を文化芸術活動の視点から考える～ というテーマのイベント。

開催日； 2023年1月13日(金)。

会場； なかのZERO大ホール。入場無料

視覚・聴覚障害者の皆さんへの生活支援を行うと同時に、文化の振興、交流、発展の文化活動に取り組んできた日本テレビ小鳩文化事業団の特長を生かしたイベントを企画・開催しました。

入場者は、約470人。(視覚障害者の方、55名。聴覚障害者の方、45名)

1部 18:00 ～ 19:00 トークセッション

「視覚・聴覚障害者との共生を文化芸術活動の視点から考える」

3人の出演者によるトークセッション

2, 舞台手話通訳

(手話を言語としている、聴覚障害者のために、すべての音声言語を手話で伝えます)

3, 字幕 要約筆記のリアルタイム制作

(手話を言語としない、中途失聴者、難聴者の聴覚障害者のために、話の内容を要約し、ほぼリアルタイムで文字として伝える)

4, ヒヤリングループ (磁気誘導ループ)

(ループ状の電源に音の電流を流し、磁界として音の信号を空中に出して補聴器や専用受信機で聴く。音源の音が直接耳に届くので音がはっきり聞こえます)

5, ボディソニック (聴覚障害者対応)

(振動装置が組み込まれたポーチとザブトクッションで構成されている。小音量でも振動ユニットから重低音振動が直接体に伝わり、聴覚に障害がある方も音楽を体感出来る)

6, 抱っこスピーカー (聴覚障害者対応)

(枕ぐらいの大きさの重さの体感振動スピーカー。楽器の音色だけでなく、楽器の振動がそのまま感じられるので、聴覚に障害のある方でも音や旋律を体感できる。)

7, サウンドハグ (聴覚障害者対応)

(抱きかかえることで音楽を視覚と触覚で感じられる球体型のデバイス。音をM I Xして振動スピーカーで再生し、また音楽にあわせて球体が発光し、高い音、低い音によって球体の色が変わる。曲の旋律を視覚でも体感できる。)

8, 視覚障害者のための触れる展示会をホールの入口で開催。

(視覚障害者のための「触れる」展示会も開催。バレエ、タンゴ、タップなどの靴、衣装展示。また、音声ガイドや、ヒヤリングループ、サウンドハグなどの各種補助手段の機器を展示)

* 入場者の方からの声

「第一部のトークセッションで、目が見えないのに、野球を生で楽しんでいる。

耳が聞こえないのに、音楽ライブが好き。その場の臨場感、空気感、観客との一体感。

ライブならではの感覚を含めて楽しんでいる、という話は、とても印象的であり、象徴的だった。まさに全身で感じて楽しんでいる。」

「第一部のトークセッションでは、難しい専門的な分析でなくトークもわかりやすく、でも的を得ていた。」

「第二部も飽きることなく、次々にダンスそして生演奏素敵でした。なかなか、クラシックバレエを入れるという発想はないと思いますが、視聴覚障害者はバレエに触れる機会が少ない為に本当によかったと思います」

「こんな短い時間に貴重なトークとこんなにたくさんの種類のダンスを見る事ができて大満足の時間を過ごしました」

「文化芸術を通じての視覚聴覚障害者との共生を考える素晴らしい契機になったと思います。」

「娘の難聴の友人達は手話や文字情報だけでなく、座席にまで配慮されている事に感動した、と話していたそうです。このイベントがこれからの舞台発表のモデルになると思います。」

「印象的だったのは、プロのピアノの演奏家の方が、視覚障害者のバイオリン奏者の穴澤雄介さんのサポートをさりげなくされていたこと。互いを受け入れ、共生していくことの大切さを言葉でなく、行動から教えていただきました。」

など嬉しい感想を頂きました。